

第7章

関連文化財群の設定



1 関連文化財群の設定の方針

(1) 関連文化財群の目的

関連文化財群とは、「地域の多種多様な文化財を歴史文化の特徴に基づくテーマやストーリーに沿って一定のまとまりとして捉えたものです。まとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値付けが可能となり、また相互に結びついた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができる。」（「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針（最終変更 2023（令和5年）3月20日）」）とされ、群を構成する複数の文化財を総合的・一体的に保存・活用するための枠組として設定します。

本市の歴史文化を特徴付ける多種多様な文化財を、ストーリーに基づいて関連文化財群としてまとめることにより、歴史文化の価値等に対する市民の理解を促進し、観光客への周知にも役立ててことができます。

さらに、関連文化財群に関する取り組みを進めながら、それぞれのストーリーを充実させ、歴史文化を解説する短編集『宮古物語』として捉えることで、本市の歴史文化の特徴や魅力を市内外に広く発信します。

(2) 関連文化財群の設定の考え方

関連文化財群は、以下の点に留意して設定します。

- ①本市の歴史文化の特性を踏まえた分かりやすいストーリーとします。
- ②ストーリーは指定等文化財を中心に、未指定文化財、地域資産で構成します。また、保存・活用の拠点となる関連施設（博物館や資料館等）や活用に関する様々な取り組みを見据えた構成とします。
- ③保存・活用についての課題や方針を明確にし、次世代への歴史文化の継承につながる内容・構成とします。

2 関連文化財群のストーリーの設定

関連文化財群の設定の考え方に基づき、本市の5つの歴史文化の特性を踏まえ、関連文化財群を短編集『宮古物語』と題して、5つのストーリーを設定します。

さらに関連文化財群ごとに「ストーリー」「構成文化財」「保存・活用の関連施設等」「構成文化財及び関連施設等分布図」「保存・活用の現状と課題及び方針」の各項目を記載しています。なお、「第9章 文化財の保存・活用の取り組み」と対応させるため、「現状と課題」「方針」には取り組みの番号を付しています。

北上山地と三陸海岸に育まれた森・川・海の歴史文化

歴史文化の特性

森・川・海の自然・景観と災害



森・川・海の恵みと共生する縄文文化



鉄と城館による地域の形成



宮古港と街道による地域の発展



森・川・海の暮らしと祈り



短編集『宮古物語』

第1話

三陸海岸の景観と津波の伝承

ストーリーの概要

- (1) 浄土ヶ浜と三陸海岸の誕生
- (2) 三陸海岸の景観と自然
- (3) 津波の記録と伝承

第2話

自然の恵みと共に生きる縄文文化
～貝塚と遺跡～

ストーリーの概要

- (1) 海の恩恵を受けた縄文貝塚
- (2) 近内中村遺跡からみえてくる
縄文人の祈りと暮らし

第3話

河川流域に展開した
古代エミシと中世土豪の世界

ストーリーの概要

- (1) 知られざる鉄のまち
- (2) 閉伊氏と館
- (3) 領主から地域の寺社へ

第4話

三陸海岸の恵みと港町宮古

ストーリーの概要

- (1) 港町宮古と商人の活躍
- (2) 五十集の道と牧庵鞭牛
- (3) 宮古港海戦と港湾整備
- (4) 黒森神楽と海の信仰

第5話

早池峰山麓の暮らしと祈り

ストーリーの概要

- (1) 北上山地にみる日本列島の起源
- (2) 希少な生態系
- (3) 豊富な山林資源と山仕事
- (4) もの作り技術の伝承
- (5) 郷土食と保存食
- (6) 早池峰信仰と神楽

図7-1 関連文化財群の設定

◆第1話

三陸海岸の景観と津波の伝承

■ストーリー

(1) 浄土ヶ浜と三陸海岸の誕生

中生代白亜紀以降、北部北上山地の一部は沈降して浅い海となり、この浅海で1億1千万年前（中生代白亜紀前期）に宮古層群が堆積しました。宮古層群は、1899（明治32）年に日出島海岸で採集された化石がきっかけとなり、白亜紀前期に堆積した地層の標準的な地層と定義されました。「崎山の蠟燭岩・潮吹穴」や「日出島」、「三王岩」は、この宮古層群の地層で形成されています。「摂待大島」では、地層からサンゴや巻貝、アンモナイトなどの化石を産出します。また、「浄土ヶ浜」の白い岩は、4千4百万年前（新生代古第三紀）に地下でマグマが上昇してできた流紋岩^{りゅうもんがん}です。マグマが冷え固まるときの節理^{せつり}（割れ目）にそって、波などの侵食が進んで形成された奇観です。

260万年前（新生代第四紀初頭）に北上山地は隆起に転じ、寒冷な氷河期と温かい間氷期が10万年周期でくり返され、海水面変動が連動して北上山地の侵食が進みました。三陸海岸の北部では、波の侵食による平らな部分が隆起して、陸上に海岸段丘（テラス）や崖が何段もできました。三陸海岸は宮古湾を境界に大きく変化し、北部は切り立った断崖が直線的に続き、南部は河川の侵食による入り江が深く入り込んだリアス海岸になっています。



摂待大島の化石

こうした三陸海岸の多様な地形、大地の活動の痕跡が確認できる地層の露頭が、三陸ジオパークのジオサイトになっています。（資料編4 三陸ジオパークサイト一覧参照）

(2) 三陸海岸の景観と自然

三陸海岸は、東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するため、2013（平成25）年5月に三陸復興国立公園に指定されました。自然が残された島や海岸は海鳥が繁殖し、「日出島クロコシジロウミツバメ繁殖地」と「佐賀部のウミネコ繁殖地^{きかべ}」が文化財に指定されています。また、ハマヒルガオやハマエンドウなど浜特有の植物が楽しめます。重茂半島の十二神山は、三陸中部で海岸に近い山地のブナ原生林の植生が、森林と谷のセットでよく残されています。「チョウセンアカシジミ」は、大陸と日本列島が陸続きだった2万年前の氷河期に移動してきた蝶で、大陸と日本列島が海に隔てられた後も生き残ったと考えられています。

2019（令和元）年6月に全線開通したみちのく潮風トレイルは、三陸海岸の雄大で美しい自然景観を旅する長距離自然歩道です。本市では、田老地域から浄土ヶ浜を通り、重茂半島を越えて山田湾に抜ける約100kmのトレイルコースが設定されています。



三王岩

(3) 津波の記録と伝承

三陸の海は、自然の恵みを与えてくれる一方で、くり返し津波となって襲いかかってきました。三陸沖では海洋プレートが大陸プレートに沈み込んで、その境界が日本海溝や千島海溝となってい

ます。プレートの沈み込みによって、北上山地は隆起を続け、プレートのひずみによって地震が発生し、海底で津波が引き起こされます。1611（慶長16）年の慶長津波から2011（平成23）年の東日本大震災までの400年間に、被害が記録された地震津波は15回を数え、本市はおよそ25年に一度津波に襲われてきました。

本市の中でも太平洋に面した田老地域と重茂地区では、1896（明治29）年と1933（昭和8）年におきた三陸地震津波の被害は甚大でした。田老地域では、昭和津波の翌年から防潮堤の工事に着手し、高さ10m・全長2.4kmでX字型の大防潮堤を築き、「津波防災の町」として行政と住民が一体となって避難訓練や体験談の記録に取り組んできました。明治津波以後には「大海嘯供養碑」といった犠牲者を弔う石碑が各地に建立されました。わずか37年後の1933（昭和8）年に再び大津波に襲われ、「三陸は津波の常襲地帯」と言われるようになり、重茂地区姉吉の津波碑のように「ここより下に家を建てるな」といったメッセージが刻まれた、大津波記念碑が建立されました。1948（昭和23）年のアイオン台風や1961（昭和36）年の三陸フェーン大火に関する石碑も建立されています。

東日本大震災後には、甚大な被害を被った田老地域で居住地が高台に移転し、たろう観光ホテルと防潮堤の中心部が津波遺構として保存されています。2012（平成24）年から学ぶ防災ガイドが活動を開始し、津波遺構を巡りながら津波災害の教訓や防災意識の向上を語るガイドツアーを行い、国内外から約20万人（令和4年2月）が参加しています。「昭和三陸地震津波写真乾板」は、田老地域の被害状況を地区住民が撮影した原板で、東日本大震災で流失しましたが、奇跡的に所有者へ返還され文化財指定に至りました。



姉吉の津波碑

■「三陸海岸の景観と津波の伝承」関連文化財群の構成文化財

	名 称	類 型	指定等	所在地	備 考
浄土ヶ浜と三陸海岸の誕生					
1	浄土ヶ浜	名勝地【名勝】	国・県指定	日立浜	ジオ・生態系サイト
2	崎山の蠟燭岩	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	国指定	崎鍬ヶ崎	ジオサイト
3	崎山の潮吹穴	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	国指定	崎鍬ヶ崎	ジオサイト
4	三王岩	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	県指定	田老青砂里	ジオサイト
5	摂待大島	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	市指定	田老摂待	
6	宮古層群の露頭	動物・植物・地質鉱物	未指定	蛸の浜	
7	宮古層群の化石露頭	動物・植物・地質鉱物	未指定	日出島海岸	ジオサイト
8	宮古層群の化石(566点)	動物・植物・地質鉱物	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
9	鮎ヶ崎	動物・植物・地質鉱物	未指定	重茂姉吉	ジオ・生態系サイト
三陸海岸の景観と自然					
10	日出島クロシロウミツバメ繁殖地	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	国指定	崎鍬ヶ崎	ジオ・生態系サイト

11	佐賀部のウミネコ繁殖地	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	県指定	田老向山	
12	田鎖神社のブナ・イヌブナ	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	県指定	田鎖	
13	チョウセンアカシジミ	動物・植物・地質鉱物 【天然記念物】	市指定	田代川・神田川・摂待川流域	
14	十二神山ブナの原生林	動物・植物・地質鉱物	未指定	重茂	生態系サイト
津波の記録と伝承					
15	昭和三陸地震津波写真乾板	歴史資料【歴史資料】	市指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
16	田老防潮堤	建造物	未指定	田老川向	震災伝承サイト
17	津波遺構たろう観光ホテル	建造物	未指定	田老野原	震災伝承サイト
18	震災メモリアルパーク中の浜	遺跡	未指定	崎山	震災伝承サイト
19	自然災害伝承碑(石碑41基)	歴史資料	未指定	市内	

■保存・活用の関連施設等

- ・宮古市三陸ジオパーク推進協議会（市産業振興部観光課） ・みちのく潮風トレイル
- ・浄土ヶ浜ビジターセンター ・たろう潮里ステーション（一般社団法人宮古観光文化交流協会）
- ・イーストピアみやこ防災プラザ（津波被害と防災に関する展示）
- ・うみどり公園（鎮魂のメモリアルモニュメント） ・震災メモリアルパーク中の浜

■「三陸海岸の景観と津波の伝承」保存・活用の現状と課題及び方針

【現状と課題 No. 1-1】

- ・市教育委員会で所蔵する化石(約 600 点寄託資料含む)について、詳しい種名や時期などが同定されておらず、調査を進める必要があります。

【現状と課題 No. 1-2】

- ・名勝地（名勝）等の指定物件及び自然災害碑が、三陸ジオパークのサイトになっており、みちのく潮風トレイルのルートとも重なっていることから、相互連携による相乗効果が期待されます。

【方針 No. 1-1】

- ・市教育委員会で所蔵する化石について、専門家による詳細調査を行い、基礎データを作成し、公開活用について検討します。

【方針 No. 1-2】

- ・一般社団法人宮古観光文化交流協会、三陸ジオパーク推進協議会及び浄土ヶ浜ビジターセンターとの連携を深め、互いに協力しながら文化財とサイト、自然災害碑、みちのく潮風トレイルの活用を図ります。



田老防潮堤 3.11追悼行事



震災メモリアルパーク中の浜 3.11追悼集会



うみどり公園 鎮魂メモリアルモニュメント

◆第2話

自然の恵みと共に生きる縄文文化～貝塚と遺跡～

■ストーリー

(1) 海の恩恵を受けた縄文貝塚

世界でも有数の豊かな漁場であり、自然に恵まれた三陸沿岸の環境は、縄文人たちも当然利用していました。貝塚は、数千年前の貝殻や魚の骨、動物の骨、ドングリなどのほか、骨や角で作られた道具である骨角器^{こつかくき}が出土するという特徴があります。本市では、「崎山貝塚」や「磯鶏蝦夷森貝塚」をはじめとする 15 遺跡で貝塚が確認されています。

「崎山貝塚」からは、岩礁地帯に生息するアイナメ・タナゴ、外洋性のマグロやカツオなどの大型回遊魚からイワシなどの小魚まで、40 種近い魚類の骨が出土しています。また、オットセイやクジラの骨も確認されています。大量のウニの殻や棘^{とげ}が出土していることが「崎山貝塚」の大きな特徴です。これらの海の恵みを獲得するため、ニホンジカの角と骨を利用した、角製の釣り針や擬似針^{ぎじしん}、骨製の銚頭^{もりがしら}などの骨角器も出土しています。こうした漁具の基本的な形状は、現代とほとんど変わらず、素材は金属へと移り変わっていきました。縄文時代の道具は現代の漁業で使っている道具へとつながっていきました。

昭和 30 年代までは、北洋のサケマス漁やサンマ棒受網漁の基地として全国から漁船が集結するなど、宮古港は大いに賑わいました。豊かな海の恵みを受けた縄文人の暮らしがみられる貝塚に、水産業のまちとして発展してきた宮古の原点をみることができます。

(2) 近内中村遺跡からみえてくる縄文人の祈りと暮らし

近内中村遺跡は、近内地区にある縄文時代早期から晩期までの縄文遺跡です。特に市内では数が少ない縄文時代後期後半から晩期(3,500 年～2,500 年前)にかけての大規模な集落跡が見つっています。全国的に見ても出土事例の希少な、完形品の巻貝形土器^{かんけい まきがい がた ど き}が出土したことで注目されました。巻貝形土器は全長 23.5 cm もあり、本物の巻き貝を真似て作ったものと考えられ、現生の巻き貝ではほとんど見られない左巻きの作りになっています。直径約 3 cm の竪穴状遺構から土偶の頭部片と小さなイノシシ形土製品とともに出土しており、何らかの祭祀儀礼^{さいし}に使われたと推測されます。

この他、縄文人が祈りや信仰のために、意図的に大小の石を並べたり組んだりして作った配石遺構^{はいせき いこう}も確認されています。さらに、配石遺構と重なるように、主にシカやイノシシの骨が集中的に広がる獣骨ブロック^{じゅうこつ}も見つっています。この獣骨ブロックからは、ツキ



上空から見た崎山貝塚



崎山貝塚から出土した骨角器



巻貝形土器

ノワグマの犬歯に穿孔を施した垂飾品が8本出土していることや、獣骨の上顎・下顎骨を中心とした頭部の骨が多く見られたことなどから、祭祀儀礼の場と考えられます。

縄文時代後期後半の墓も多数検出され、その墓域は、堅穴建物とは重なり合わず、居住域に隣接して形成されていました。単に穴を掘っただけの土坑墓のほか、香炉形土器や注口土器、壺形土器などの完形土器を置いたもの、上面を多量の石で覆ったもの、大きな石を置いただけのもの、深鉢形土器を埋設したもの、さらに縄文人と犬と一緒に埋葬された墓も1基見つかっています。このような多様なタイプの墓の存在は、縄文人の信仰や精神文化を考える上で重要な手掛かりです。

土坑墓の中には、新潟県糸魚川産のヒスイ小玉が副葬されたものもあり、縄文時代の交易や物流、交流が広範囲で遠方に及ぶことが明らかになっています。

この他、土偶や腕輪状土製品、石刀や石棒なども多数出土し、自然の恵みの恩恵を受けた縄文人の精神文化や暮らしを考えていく上で、重要な遺跡のひとつです。



ツキノワグマ牙製装飾品



注口土器

■「自然の恵みと共に生きる縄文文化～貝塚と遺跡～」関連文化財群の構成文化財

	名 称	類 型	指定等	所在地	備 考
海の恩恵を受けた縄文貝塚					
1	崎山貝塚	遺跡【史跡】	国指定	崎山	文化サイト
2	磯鶏蝦夷森貝塚	遺跡【史跡】	市指定	磯鶏	
3	磯鶏蝦夷森貝塚出土人骨	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
4	鎌ヶ崎館山貝塚出土骨角器	考古資料	未指定	名古屋大学	
5	大付遺跡出土人骨	考古資料	未指定	岩手県立博物館	
6	崎山貝塚出土獣魚骨類	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
7	崎山貝塚出土釣り針・開窩式銚頭などの漁具	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
8	崎山貝塚出土貝類	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
9	鎌ヶ崎館山貝塚	遺跡	未指定	鎌ヶ崎	
10	大付遺跡	遺跡	未指定	崎山	
11	崎山貝塚貝層断面の剥ぎ取り	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
12	獣魚骨の現生標本	地域資産(その他)	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
近内中村遺跡からみえてくる縄文人の祈りと暮らし					
13	近内中村遺跡出土巻貝形土器	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
14	近内中村遺跡出土ツキノワグマ牙製垂飾品	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
15	近内中村遺跡出土石刀	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
16	近内中村遺跡出土遮光器土偶	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	

17	近内中村遺跡出土イノシシ形土製品	考古資料	未指定	宮古市埋蔵文化財センター	
18	近内中村遺跡出土ヒスイ製品	考古資料	未指定	宮古市埋蔵文化財センター	
19	上村貝塚出土ヒスイ製大珠	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
20	近内中村遺跡	遺跡	未指定	近内	
21	上村貝塚	遺跡	未指定	磯鶏	

■保存・活用の関連施設等

- ・浄土ヶ浜ビジターセンター
- ・岩手県立水産科学館
- ・宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム、宮古市埋蔵文化財センター
- ・北上山地民俗資料館小国分館

■「自然の恵みと共に生きる縄文文化～貝塚と遺跡～」構成文化財および関連施設等分布図



■「自然の恵みと共に生きる縄文文化～貝塚と遺跡～」保存・活用の現状と課題及び方針

【現状と課題 No. 2-1】

- ・ 崎山貝塚縄文の森ミュージアムが所有する復元した丸木舟や釣り道具、火おこしの道具類などを活かした体験型のイベントやメニューは、縄文時代に特化したものとどまっているのが現状です。北上山地民俗資料館小国分館が所蔵する民俗資料や県立水産科学館の所蔵資料も併せて活用し、現代の漁業や民俗とも関連付けた事業の展開を考えていく必要があります。

【現状と課題 No. 2-2】

- ・ 近内中村遺跡の資料整理及び発掘調査報告書作成作業が、現在進められています。また、巻貝形土器を含む縄文時代後期後半から晩期にかけての出土遺物は、専門家からもその重要性が指摘されており、その価値を明らかにする必要があります。

【現状と課題 No. 2-3】

- ・ 本市を含む三陸沿岸には多数の貝塚があり、出土資料を展示している博物館・資料館もありますが、それぞれの館の所蔵資料や活用事業等の情報共有ができていないのが実情です。各館との連携関係を構築し、事業に取り組んでいく必要があります。

【方針 No. 2-1】

- ・ 崎山貝塚縄文の森ミュージアムの特徴を活かした縄文時代の体験型のイベントやメニューのほか、企画展や講座等において北上山地民俗資料館小国分館や県立水産科学館の所蔵資料の活用を積極的に取り入れ、現代の漁業や民俗との比較を行いながら事業を進めます。

【方針 No. 2-2】

- ・ 発掘調査報告書を刊行することによって、専門家による近内中村遺跡の評価を定め、巻貝形土器などの重要性和魅力を発信していきます。専門家による出土遺物の調査を行い、近内中村遺跡の価値の向上を図ります。

【方針 No. 2-3】

- ・ 三陸沿岸に分布する貝塚のある他の施設や岩手県内の博物館や資料館との連携を進め、資料の相互貸借や情報の共有・発信など、互いに縄文時代の貝塚と遺跡の魅力向上に努めます。

◆第3話

河川流域に展開した古代エミシと中世土豪の世界

■ストーリー

(1) 知られざる鉄のまち

東北地方の人々が中央政府に「蝦夷」と呼ばれていた古代（奈良時代・平安時代）に、本市では初めて鉄を利用した製品が登場します。最も古い鉄製品は「長根Ⅰ遺跡（長根古墳群）」の蔵手刀や直刀等の刀剣類で、年代は奈良時代（8世紀代）のものです。その後、古代集落の竪穴建物からも刀子・鉄鏃などの鉄製品が出土するようになり、さらに、平安時代になると、製鉄炉や鍛冶炉等の鉄生産に関連する遺構が急増していきます。

本市の沿岸部は、花崗岩由来の砂鉄と豊富な森林資源から得られる木炭という、鉄生産に欠かせない原料と燃料が揃う環境であったため、島田Ⅱ遺跡のように鉄生産における専門的な工人集落の様相を呈する遺跡も現れ、本市周辺は「蝦夷」として鉄生産の重要な拠点の一つでした。

東日本大震災後の復興発掘調査の成果によって、古代（奈良時代・平安時代）に始まる鉄生産が、中世にかけても断続的に営まれていたことが分かってきました。さらに近世（江戸時代）になると田野畑村や岩泉町周辺において鉄山が経営されますが、本市においては黒森町Ⅰ遺跡で鋳物用の炉跡が見つかり、鰐口等を鋳造していました。

幕末には、盛岡藩が大島高任に命じて反射炉建設計画を始め、その建設候補地として宮古通近内村が挙げられました。1865（慶応元）年12月には建設が決定し、公式に「近内製鉄場」と呼ばれました。しかし、明治維新により建設は途中で中止され、やがて近代製鉄の場は、洋式高炉での初出鉄に成功した釜石に移っていきます。

古代から中世、そして近世、幕末へと鉄生産の技術を受け継いできた鉄のまちは、「幻の近内製鉄場」とともに終わりをつげました。

(2) 閉伊氏と館

鎌倉幕府より地頭職を与えられた閉伊氏に相続争いがおこり、1324（元亨4）年の北条高時決裁状により決着しました。決裁状に分割された領地が記され、呂木（老木）・閉河・田久佐利（田鎖）・小山田・閉崎・赤前の所領と鯨ヶ崎、笠間（山口）の地名が見られます。閉伊氏一族の家門は栄えて、田鎖・刈屋・和井内・茂市・長沢・花輪・大沢・箱石・墓目・中村・重茂などの諸家が割拠しました。彼らは「田鎖党」「田鎖十三家」などと称され、その氏名が地名と一致しています。



製鉄炉(青猿Ⅰ遺跡)



鉄製品(赤前Ⅴ柳沢遺跡)

中世・戦国時代の武士が建設して所領を守り治めた城館の遺跡は、市内で71箇所を把握しており、大規模なものでは千徳城、山口館、田鎖館などの館に宮古地方を治めていた国人領主^{こくじんりょうしゅ}の存在がうかがえます。こうした領主の下に束ねられた土豪^{どぶ}が、各地に館を築いて村を治めていました。小国地区の「大梵天館跡」は、川井から遠野への交通を抑える要地に構えられています。腹帯館は、閉伊川沿いの要害で、館主のものと思われる兜が地元に伝わっており、その形態から「十八間星兜鉢」は鎌倉時代、「三十二間筋兜」は室町時代の作です。館の麓に「応永石塔婆碑」があり、中世の館と村落の構造を考える上でも重要です。



千徳城 空堀跡

山口館に守られた黒森神社に伝わる1370（応安3）年の棟札により、当時すでに南部氏が閉伊郡地頭となって支配し、黒森山権現社を創建したことが分かります。

（3）領主から地域の寺社へ

館を築いて地域を治めていた国人領主や土豪は、単に戦や村の統治を行っただけでなく、宗教的な面でも地域の核となる存在でした。1334（建武元）年に製作された「鉄鉢」は、神社などの賽銭鉢であり、黒森神社の前身である社堂の存在がうかがえます。1340（暦応3）年建立で市内最古の石碑である「暦応の碑」、1396（応永3）年の「応永石塔婆碑」は、領主を供養するために建立されたと考えられます。



応永石塔婆碑

また、小山田神社には、鎌倉時代の「毘沙門天像」と室町時代の懸仏^{かへぶつ}が残されており、当時の領主が地域の安寧^{あんねい}を祈願したものと考えられます。

また、鎌倉・南北朝時代に開かれていた天台宗・真言宗^{しんごん}の寺院は、戦国時代に大名や在地領主らの菩提寺となり曹洞宗^{そうどう}に改宗していきました。東北地方の曹洞宗本山正法寺の住職だった月泉良印^{げつせんりょういん}は、早池峰大権現を信仰し、1394（応永元）年に小国地区寺倉^{けいとうざん}に鶏頭山大圓寺を開創しました。

鎌倉時代に閉伊頼基^{へいよりもと}の7人の重臣が死後に閉伊七社明神となつて、この閉伊地方を守護したという伝説が各地に残されています。松山・老木・川崎（刈屋）・川井・川内・江繋・国境（区界）の七社で、閉伊川及びその支流の刈屋川・小国川沿いに分布しています。また、中世の館に祀られた神が、後に村の鎮守^{ちんじゅ}として祀られ、八幡宮や八幡神社となって現在に至っています。田代・千徳・根城・赤前など多くの地域で、地域の歴史文化の核として守り伝えられてきました。



毘沙門天像

■「河川流域に展開した古代エミシと中世土豪の世界」関連文化財群の構成文化財

	名 称	類 型	指定等	所在地	備 考
知られざる鉄のまち					
1	長根古墳群出土品	考古資料【考古資料】	県指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	文化サイト
2	蕨手刀	考古資料【考古資料】	市指定	松山	
3	神田沢遺跡出土品	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
4	遺跡出土の鉄製品 (刀子、鉄斧、鉄鎌、鉄製釣針など)	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
5	島田Ⅱ遺跡出土品	考古資料	未指定	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
6	磯鶏館山遺跡出土品	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
7	田鎖車堂前遺跡出土品	考古資料	未指定	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
8	津軽石大森遺跡出土品	考古資料	未指定	崎山貝塚縄文の森ミュージアム	
9	宮古通製鉄場絵図	古文書	未指定	釜石市鉄の歴史館	
10	細越Ⅰ遺跡	遺跡	未指定	田代	
11	萩沢Ⅱ遺跡	遺跡	未指定	崎山	
12	黒森町Ⅰ遺跡	遺跡	未指定	山口	
13	長根Ⅰ遺跡（長根古墳群）	遺跡	未指定	長根	
14	青猿Ⅰ遺跡	遺跡	未指定	長根	
15	田鎖車堂前遺跡	遺跡	未指定	田鎖	
16	島田Ⅱ遺跡	遺跡	未指定	八木沢	
17	磯鶏館山遺跡	遺跡	未指定	磯鶏	
18	塞の神Ⅲ遺跡	遺跡	未指定	金浜	
19	金浜Ⅴ遺跡	遺跡	未指定	金浜	
20	津軽石大森遺跡	遺跡	未指定	津軽石	
21	赤前Ⅲ遺跡	遺跡	未指定	赤前	
22	赤前Ⅳ八枚田遺跡	遺跡	未指定	赤前	
23	近内製鉄場跡	遺跡	未指定	近内	
24	須賀君古麻比留	地域資産(その他)	未指定	—	
閉伊氏と館					
25	十八間星兜鉢	工芸品【工芸品】	市指定	腹帯	
26	三十二間筋兜	工芸品【工芸品】	市指定	腹帯	
27	三十四間筋兜	工芸品【工芸品】	市指定	宮古市立図書館	
28	根城館跡	遺跡【史跡】	市指定	老木	
29	大梵天館跡	遺跡【史跡】	市指定	小国	
30	山口館跡	遺跡	未指定	山口	
31	千徳城跡	遺跡	未指定	千徳	
32	田鎖館跡	遺跡	未指定	田鎖	
33	松山館跡	遺跡	未指定	松山	
34	腹帯館跡	遺跡	未指定	腹帯	

35	弘川館跡	遺跡	未指定	津軽石	
36	田鎖の牧	地域資産(その他)	未指定	田鎖	
領主から地域の寺社へ					
37	獅子頭(黒森神社16頭)	彫刻【彫刻】	県指定	宮古市立図書館	
38	木造虚空蔵菩薩坐像	彫刻【彫刻】	県指定	長根	
39	鉄鉢	考古資料【考古資料】	県指定	山口	
40	雲龍文透し地紐九條袈裟 附伝衣贈記・大衣帛紗	歴史資料【歴史資料】	県指定	盛岡市久昌寺	
41	一石一字経塚	遺跡【史跡】	県指定	館合町	
42	黒森神社本殿	建造物【建造物】	市指定	山口	文化サイト
43	寺院大圓寺	建造物【建造物】	市指定	小国	
44	毘沙門天像	彫刻【彫刻】	市指定	小山田	
45	大日如来像	彫刻【彫刻】	市指定	腹帯	
46	役の行者・二鬼像	彫刻【彫刻】	市指定	腹帯	
47	小山田薬師堂本尊懸仏	工芸品【工芸品】	市指定	小山田	
48	暦応の碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	熊野町	
49	応永石塔婆碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	腹帯	
50	黒森神社の棟札(13点)	歴史資料	未指定	山口	

■保存・活用の関連施設等

- ・宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム ・山口公民館 ・千徳公民館
- ・花輪農村文化伝承館 ・里の駅おぐに ・宮古市立図書館

■「河川流域に展開した古代エミシと中世土豪の世界」保存・活用の現状と課題及び方針

【現状と課題 No. 3-1】

- ・「蕨手刀」「長根古墳群出土品」等の鉄製品については、毎年現況確認により状態観察を行っています。確認の結果、錆化の進行によって保存処理が必要となる可能性があります。

【現状と課題 No. 3-2】

- ・鉄作り体験等を通して、古代・中世から近世、そして近代製鉄へとつながる鉄生産技術の復元が求められています。

【現状と課題 No. 3-3】

- ・中世に関する地元の古文書史料は確認されておらず、室町幕府や東北地方の中世史料等について研究する必要があります。

【現状と課題 No. 3-4】

- ・中世城館遺跡の詳細な実地調査が行われておらず、千徳城など主要な城館だけでも全容を把握する必要があります。
- ・千徳城と弘川館、八木沢新館の散策路を整備するなど、モデルケースとして公開に取り組んでいますが、草刈りなどの環境整備の体制が課題となっています。

【方針 No. 3-1】

- ・指定等文化財や遺跡から出土した鉄製品の状態確認を網羅的に行い、保存処理や梱包などの対策を講じます。

【方針 No. 3-2】

- ・鉄づくり体験を行いながら、市内における古代・中世の鉄生産遺跡の概要や変遷等の調査研究を行い、鉄生産技術の復元を目指します。岩手県事業である「いわて鉄文化関連遺産ネットワーク」とも連携しながら、「鉄のまち」宮古の周知と魅力向上を図ります。

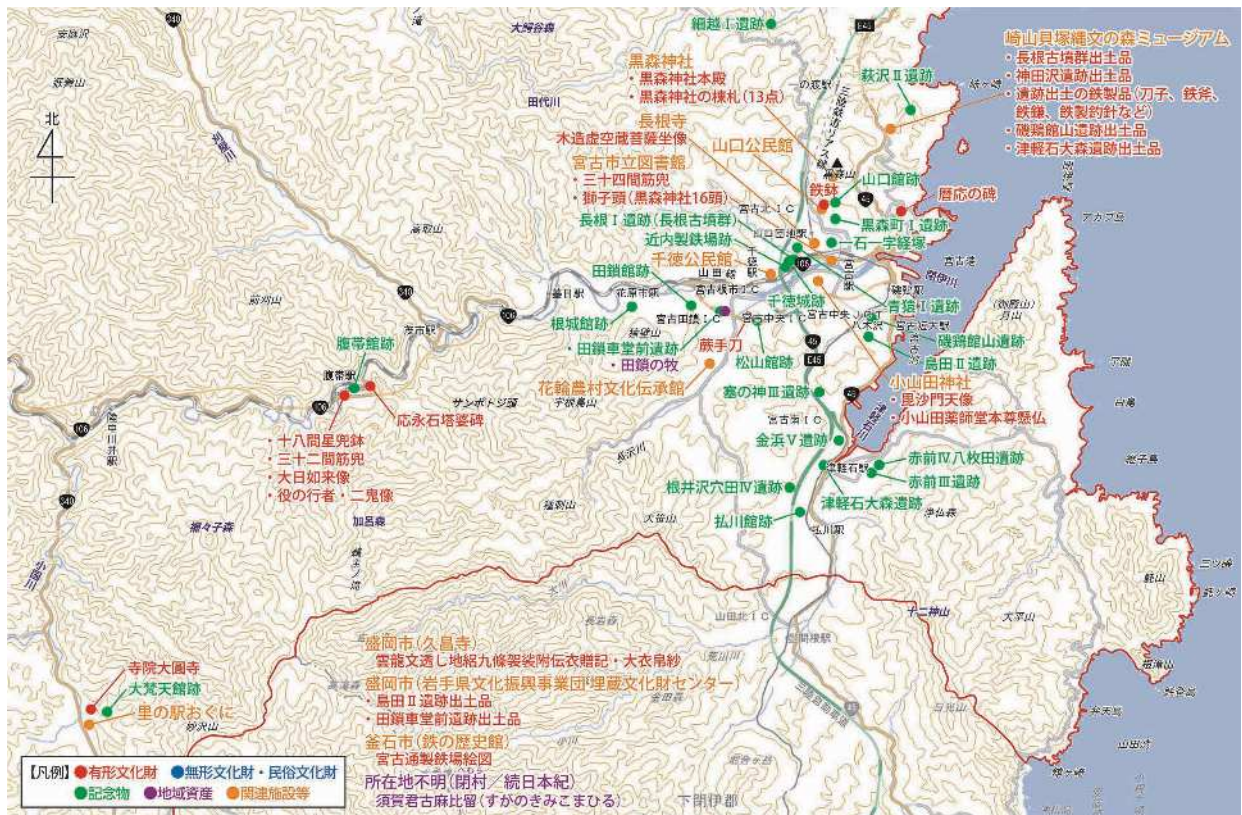
【方針 No. 3-3】

- ・すでに刊行されている中世文書資料から閉伊の名馬や館、国人領主に関する史料を収集し、中世閉伊郡の解明に取り組みます。

【方針 No. 3-4】

- ・市内の城館跡について、専門家を招へいして縄張り等を調査し、城館の特徴や魅力を明らかにします。また、その成果を情報発信し、ふるさと宮古への愛着と誇りの醸成、歴史愛好家の訪問等の交流人口の拡大につなげます。
- ・城館跡への散策路に案内表示や説明板を設置し、地域住民等と共に城館跡の維持管理等を行い、保存・活用する活動の創出を図ります。

■「河川流域に展開した古代エミシと中世土豪の世界」構成文化財及び関連施設等分布図



◆第4話

三陸海岸の恵みと港町宮古

■ストーリー

(1) 港町宮古と商人の活躍

江戸時代、宮古港は盛岡藩の主要港、江戸と松前（北海道）を結ぶ航路の絶好の寄港地となり、南部家領内随一の繁華地「南部の宮古港」として全国に知られました。

岩手県は世界三大漁場とも言われる三陸沖をひかえ、水産界の先進地域であり、1890（明治23）年の内国勸業博覧会に、漁法や漁具を図示した「漁具類聚」が出品されました。

宮古湾は江戸が大都市となるにつれ、江戸商人との海産物の取り引きが盛んになり、多くの廻船問屋が宮古町に outlet しました。本町の幾久屋や磯鶏の蔵屋など、商家は廻船問屋と質屋（金融業）を兼業して大店へと成長し、大量の古文書が残されています。盛合家は、津軽石川の鮭留漁と廻船問屋、造酒屋、質屋を兼業し、1796（寛政9）年の藩主巡見の際に調べられた、江戸後期の家屋と庭園が当時のまま残されています。

江戸後期に成長した東屋は、明治以後も大店として宮古湾埋め立てなどの社会資本整備に貢献し、一族が当地方の発展を支える存在でした。明治後期建築の店舗兼主屋と幕末期の酒蔵、質蔵が残されており、往時の繁栄を物語っています。

(2) 五十集の道と牧庵鞭牛

宮古街道は、城下盛岡と三陸海岸の主要港である宮古を結び、海産物や塩を盛岡城下に運ぶ「五十集の道」として重要な街道でした。盛岡藩は、1642（寛永18）年に閉伊地方の里程を42丁で1里と定め、七里詰めをの塚を整備しました。この時の塚が「早坂一里塚」です。

宮古街道は、藩の御用荷物を運ぶ伝馬、夫伝馬のほかに、海産物や穀物をウマの背につけて運ぶ「だんこづけ」が通いました。街道筋には難所が多く、川井明神には海産物を運ぶ五十集衆が建立した「馬頭観音塔」があります。また、街道の分かれ道には行き先が刻まれた追分碑（道標）も立てられました。

牧庵鞭牛は、宮古市和井内清水に生まれ、釜石市橋野の林宗寺の住職（六世）となり、引退後に閉伊地方の道路開削にその半生を捧げました。当時の道や橋の工事は、近隣から多くの人が労働力を提供するものでした。工事が終わると供養碑が建立され、牧庵鞭牛の道路改修を示す15基の道供養碑が残されています。



宮古港



盛合家住宅主屋の座敷



旧東屋酒造店店舗兼主屋



鞭牛道供養碑

（３）宮古港海戦と港湾整備

明治維新の戊辰戦争では、1869（明治2）年5月に宮古港海戦が勃発しました。旧幕府軍と新政府軍の両軍艦隊が箱館（現在の函館）に渡航する際に宮古港に寄港しており、重要な寄港地である宮古港が海戦の舞台となったのは必然でした。宮古港海戦の戦史は日本人による洋式海戦のさきがけとして顕彰され、1917（大正6）年に宮古港戦蹟碑が建立されています。

明治維新後には、船舶の大型化や物資の増加に対応するため、港湾の埋め立てに着手しました。1882（明治15）年には閉伊川河口の埋め立てと光岸地の切通し開削によって、宮古町と鉾ヶ崎町が結ばれ港町宮古発展の礎が築かれました。大正時代には、宮古港である鉾ヶ崎を埋め立て、三陸汽船が就航して、東京・函館と結びました。

昭和になると国の第二種重要港湾に指定され、1937（昭和12）年に出崎ふ頭が完成しました。田老鉱山とラサ工業小山田精錬所が、鉄索と鉄道によって出崎ふ頭で結ばれ、田老と宮古の基幹産業となります。北上山地の豊富な森林資源は、宮古港から木材として移出されました。戦後もサンマやサケ・マス漁業の基地として賑わい、水産業は町の経済を支え発展し続けます。昭和30年代のサンマの出漁解禁には、全国から300隻以上のサンマ船が宮古港に集結する盛況ぶりでした。

（４）黒森神楽と海の信仰

江戸時代になって、宮古浦・鉾ヶ崎浦は廻船問屋など大店や蔵、旅籠、船宿、料亭が軒を並べました。これに伴って大漁や海上安全を祈願する神社の祭りも賑わっていきました。鉾ヶ崎熊野神社などの例祭では、神輿が漁船に乗って湾内を回る海上渡御（曳き船）が行われ、船上では神楽の恵比寿舞が奉納されます。

黒森山中腹に鎮座する黒森神社は、大漁成就・海上安全をかなえる神社として宮古湾内の漁業者や商家の信仰を集めました。「黒森神楽」は、黒森神社の神霊を移した「権現様」（獅子頭）を携えて、旧盛岡藩の沿岸集落を廻る巡行を今なお継続している貴重な神楽集団です。



黒森神社本殿

■「三陸海岸の恵みと港町宮古」構成文化財

	名 称	類 型	指定等	所在地	備 考
港町宮古と商人の活躍					
1	漁具類聚	歴史資料【歴史資料】	県指定	岩手県立宮古水産高等学校	
2	盛合家住宅主屋	建造物【建造物】	国登録	津軽石	
3	盛合氏庭園	名勝地【名勝地】	国登録	津軽石	
4	旧東屋酒造店酒蔵	建造物【建造物】	国登録	本町	
5	旧東屋酒造店質蔵	建造物【建造物】	国登録	本町	
6	旧東屋酒造店店舗兼主屋	建造物【建造物】	国登録	本町	
7	盛合家所蔵書画（5点）	工芸品	未指定	津軽石	
8	津軽石盛合家文書	古文書	未指定	宮古市立図書館	
9	本町東屋文書	古文書	未指定	本町	
10	磯鶏蔵屋文書	古文書	未指定	宮古市立図書館	
11	磯鶏森田家文書	古文書	未指定	宮古市立図書館	
12	本町幾久屋文書	古文書	未指定	宮古市立図書館	

13	南部藩宮古御水主文書	古文書	未指定	山口	
14	虎丸図	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
15	三閉伊日記	古文書	未指定	岩手県立博物館	
16	鍬ヶ崎盛合家文書	古文書	未指定	岩手県立博物館	
17	盛岡藩雇船札	歴史資料	未指定	岩手県立博物館	
18	開港記念碑	歴史資料	未指定	新川町	
19	町割り石	歴史資料	未指定	沢田	
20	宮古代官所跡	地域資産(その他)	未指定	築地	
五十集の道と牧庵鞭牛					
21	早坂一里塚	遺跡【史跡】	市指定	箱石	
22	鞭牛碑群 (No.1-8)	歴史資料【歴史資料】	市指定	長沢	
23	鞭牛碑群 (No.9)	歴史資料【歴史資料】	市指定	築地	
24	鞭牛道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	花原市	
25	牧庵鞭牛道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	墓目	
26	牧庵鞭牛新道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	茂市	
27	褰岩の道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	川井	
28	老木の道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	川井	
29	岡村岩屋の道供養碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	片巢	
30	牧庵鞭牛道路開削工具 (8点)	歴史資料【歴史資料】	市指定	新里生涯学習センター	
31	鞭牛使用の大般若経	歴史資料【歴史資料】	市指定	新里生涯学習センター	
32	湯本開山牌	歴史資料【歴史資料】	市指定	和井内	
33	十三仏と岩屋	遺跡【史跡】	市指定	長沢	
34	まぐさ宿	建造物	未指定	区界	
35	吉川保正「鞭牛和尚」	絵画	未指定	新里生涯学習センター	
36	宮古新道図	古文書	未指定	北上山地民俗資料館	
37	御城下ヨリ宮古迄街道図	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
38	閉伊街道図	古文書	未指定	岩手県立図書館	
39	戸川通往還難所工事諸留	古文書	未指定	岩手県立図書館	
40	忘想歌千首	古文書	未指定	新里生涯学習センター	
41	智芳秀全血書名号掛軸	古文書	未指定	墓目	
42	黒崎大明神棟札控帳	古文書	未指定	宮古市立図書館	
43	追分碑 (西国順礼塔、庚申塔)	歴史資料	未指定	夏屋	
44	追分碑 (宮古道)	歴史資料	未指定	川内	
45	馬頭観音塔	歴史資料	未指定	川井	
46	追分碑 (庚申塔)	歴史資料	未指定	茂市	
47	宿屋営業表札	歴史資料	未指定	北上山地民俗資料館	
48	馬具 (だんこつけ)	歴史資料	未指定	北上山地民俗資料館	
49	県道盛岡宮古港線元標	歴史資料	未指定	鍬ヶ崎	
50	道又一里塚	遺跡	未指定	小国	
51	摂待一里塚	遺跡	未指定	摂待	
52	牧庵鞭牛和尚の生家跡	遺跡	未指定	和井内	
53	平片の滝	名勝地	未指定	和井内	
宮古港海戦と港湾整備					
54	官軍勇士の墓	遺跡【史跡】	市指定	中里団地	
55	官軍小西周右衛門の墓	遺跡【史跡】	市指定	沢田	

56	幕軍勇士墓碑	歴史資料【歴史資料】	市指定	藤原	
57	宮古港海戦の図	絵画	未指定	新町	
58	宮古村絵図	古文書	未指定	宮古市立図書館	
59	宮古湾埋立地落成出来形正図	古文書	未指定	宮古市立図書館	
60	海岸防備図	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
61	砲台図	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
62	遊撃隊起終録并南蝦夷戦争記 附録戦地写生図	古文書	未指定	市立函館博物館	
63	蝦夷錦	古文書	未指定	函館市中央図書館	
64	海図第3号「陸中国宮古港之図」	歴史資料	未指定	海上保安庁	
65	海図「宮古港」	歴史資料	未指定	岩手県立宮古水産高等学校	
66	宮古港戦蹟碑	歴史資料	未指定	光岸地	
67	光岸地切通し	地域資産(その他)	未指定	光岸地	
黒森神楽と海の信仰					
68	黒森神楽	無形の民俗文化財 【重要無形民俗文化財】	国指定	山口	文化サイト
69	獅子頭（黒森神社 16 頭）	彫刻【彫刻】	県指定	宮古市立図書館	
70	鉄鉢	考古資料【考古資料】	県指定	山口	
71	黒森神社本殿	建造物【建造物】	市指定	山口	文化サイト
72	黒森神社普請古文書	古文書【古文書】	市指定	宮古市立図書館	
73	陸中沿岸地方の神子舞	無形の民俗文化財	国選択	山口	
74	川原田家文書	古文書	未指定	宮古市立図書館	
75	黒森権現書留	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
76	篤焉家訓	古文書	未指定	もりおか歴史文化館	
77	山口館跡出土密教法具	考古資料	未指定	岩手県文化振興事業団埋蔵 文化財センター	
78	黒森神社の棟札（13 点）	歴史資料	未指定	宮古市立図書館	
79	湊大杉神社の神輿海上渡御	無形の民俗文化財	未指定	光岸地	
80	鍬ヶ崎熊野神社の神輿海上渡御	無形の民俗文化財	未指定	鍬ヶ崎	
81	横山八幡宮の神輿海上渡御	無形の民俗文化財	未指定	宮町	

■保存・活用の関連施設等

- ・県立水産科学館 ・浄土ヶ浜ビジターセンター ・シートピアなあと（道の駅・みなとオアシスみやこ）
- ・北上山地民俗資料館 ・新里生涯学習センター ・道の駅やまびこ館
- ・市産業振興部観光課、企業立地港湾課 ・山口公民館（黒森神楽展示室）

■「三陸海岸の恵みと港町宮古」保存・活用の現状と課題及び方針

【現状と課題 No. 4-1】

- ・本町の旧東屋酒造店や磯鶏の蔵屋などの市内商家には、古文書が残されており、市史を紐解いていくために、これらの資料を収集のうえ整理保存し、調査を進める必要があります。

【現状と課題 No. 4-2】

- ・国登録文化財「旧東屋酒造店」の建築調査がなされていないため、詳細な図面を作成すると共に、破損や傾きなどの保存状態や耐震状況などを総合的に調査する必要があります。
- ・民間事業者が「旧東屋酒造店」の酒蔵を映画上映等に活用していますが、商店街との連携等の活用の充実が必要です。

【現状と課題 No. 4-3】

- ・国登録文化財「盛合家」は、津軽石駅と公民館の近隣に位置し、地域振興と三陸鉄道を活かした

交流人口の拡大が期待されています。また、建築後 220 年以上が経過し、修復が必要な破損箇所が多く見られます。

【現状と課題 No. 4-4】

- ・宮古港海戦については、参戦した軍艦の図と宮古港内の停泊図があり、海戦の経過を詳細に解説することが可能です。出崎ふ頭から出向する浄土ヶ浜遊覧船からは、宮古港海戦の戦場となった宮古港を望むことができ、現地での解説等を通じて理解の促進と観光客誘客が期待されます。

【現状と課題 No. 4-5】

- ・国指定重要無形民俗文化財「黒森神楽」は、江戸時代初期から広範囲に長期にわたる廻村巡行を継続していますが、高齢化や人口減少が進み、神楽を受け入れる神楽宿が年々減少しています。各地のホテルや旅館、観光業者と連携するなど、新しい巡行の形態の模索が必要となっています。
- ・神楽を上演する機会を確保するため、保存会が「神楽祭」と称して自主公演を行っており、こうした取り組みを支援する必要があります。2026(令和8)年が黒森神楽の国指定 20 周年にあたり、周年事業などの実施により黒森神楽の価値と魅力を発信し、交流人口の拡大につなげることが期待されます。

【方針 No. 4-1】

- ・本町の旧東屋酒造店や磯鶏の蔵屋など大量の商家古文書について、収集のうえ整理保存し、解説を進めることにより、江戸商人との交易など経済的な繁栄の究明に取り組みます。

【方針 No. 4-2】

- ・「旧東屋酒造店」の建造物の詳細調査に取り組み、保存状態と修繕の必要性を確認し、建造物としての歴史的価値を明らかにします。
- ・「旧東屋酒造店」の活用団体を支援しながら、商店街や観光・産業の庁内関連部署との連携を図り、歴史文化を活かしたまちづくりについて検討します。

【方針 No. 4-3】

- ・所有者や津軽石公民館、地域住民を中心に建造物と庭園の維持や公開・活用に取り組み、歴史愛好家などの訪問による津軽石駅の利用促進と交流人口の拡大を図り、地域住民の誇りの醸成につなげます。また、緊急を要する破損箇所については、専門家の協力を得ながら修復を進めます。

【方針 No. 4-4】

- ・宮古港海戦に参戦した軍艦の図と宮古港内の停泊図により、コンピューターグラフィックなどで海戦の経過を解説する映像を作成します。船内や待合所での上映により理解の促進と観光客誘客に取り組みます。

【方針 No. 4-5】

- ・巡業の神楽宿が継続できるよう宿主を支援する必要があると、宮古観光文化交流協会と連携した新たな神楽宿の形態を模索し、廻村巡行の継続と交流人口の拡大を図ります。
- ・神楽宿が減少するなかで、公演の機会を補完する保存会の自主公演を支援し、必要に応じて道具衣装の修理・新調を支援します。黒森神楽を紹介するパンフレットやSNSなどによって黒森神楽の価値と魅力を発信しながら、2026(令和8)年に国指定 20 周年記念公演を開催し、県内外から鑑賞者の誘致を図ることにより交流人口の拡大に寄与します。

◆第5話 早池峰山麓の暮らしと祈り

■ストーリー

（1）北上山地にみる日本列島の起源

早池峰山は、4億年以上前に形成された、国内でもとても古い時代の岩石でできており、日本列島の起源を知るうえで重要な場所になっています。現在の北上山地は、1億年以上前（中生代白亜紀後期）から2千万年前（新生代新第三紀）にかけて、長期にわたる侵食を受けた結果、なだらかな地形になり、地下深くにあった岩石が露出するようになりました。

早池峰山麓を源流とする薬師川の流域は、南部北上帯を形成する4億年以上前の海洋プレートの岩石や海底の堆積物を見ることができる貴重な地域です。一方、区界高原を源流とする閉伊川は、本市の大部分をしめる北部北上帯の硬い地層にぶつかるたびに流れをかえて蛇行し、現在の曲がりくねった深い谷をつくりました。腹帯地区の閉伊川流域では、北部北上帯のチャートや混在岩^{こんざいがん}が見られ、大規模な地殻変動の跡を観察することができます。



早池峰山と薬師岳

（2）希少な生態系

早池峰山は、ハヤチネウスユキソウなど固有種や希少種の高山植物が多く、「花の百名山」にも選定され、「早池峰山および薬師岳の高山帯・森林植物群落」に指定されています。また早池峰山北面には、その寒冷な環境と地質によって氷河期の生き残りと考えられる、「アカエゾマツ自生南限地」があります。

兜神社を中心とする区界高原にも希少な動植物が見られ、魅力的な自然観察地です。

（3）豊富な山林資源と山仕事

本市は、北上山地の豊かな山林資源に恵まれ、昔から林業が盛んでした。大正時代に森林軌道で「早池峰ヒバ」と呼ばれる良質な木材が搬出され、江戸時代にさかのぼると「早池峰のひのき」として盛岡城下へ建築材や屋根^{まさ}柱として送られました。また、木材を閉伊川で宮古まで送る流送^{りゅうそう}も行っていました。

岩手県を代表する民謡のひとつ「南部木挽唄」は製材が手作業で行われていた頃の仕事唄です。鉄道枕木の産出が盛んだった明治、大正、昭和初期には、山で杣角造材と製材の両方をこなす「枕木木挽き」が主流でした。また、「木炭王国岩手」といわれた昭和30年代までは、土窯による炭焼が盛んでした。

夏屋地区は優良な砥石^{といし}の産地でした。砥石は日常の台所道具に加えて農具や山仕事道具の手入れに欠かせません。かつては夏屋川流域で手掘り採掘され、広く地元で使用されたほか、昭和30年代には「朝日虎印なつや砥」の名称で優れた中砥として全国に流通しました。ほかにも、早池峰山麓の豊富な木材を活かした「小国膳」は外側が黒、内側が朱塗りで猫足が特徴のお膳です。製材から塗りまでの工程が家内工業で行われ、沿岸



枕木製材

部まで行商に行っていました。

（４）もの作り技術の伝承

工場で大量生産された機械工業製品が出回るまで、生活や仕事に必要なさまざまな道具が手作りで作られていました。「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」をはじめ、収集された有形の民俗文化財は、自然の素材を活かす知恵や技術を物語っています。

（a）樹皮の利用

どんなものを作りたいかによって木や蔓^{つる}を選び、昔から伝えられてきた技術で樹皮を剥ぎ取りました。剥ぐのに適した時期^{にゆうばい}は入梅の頃で、だいたい5月から7月初旬までのことでした。シナノキ、ツキノキ、サワグルミ、ヤマブドウなど10種類以上の樹種が利用されました。



樹皮の利用

（b）わら等の利用

稲わらは柔らかくて保温性にすぐれているので、履物を作る材料にはどうしても必要でした。他にもスゲ、ホウキキビ、ミョウガ、ガマ、カヤ、シノダケなど、さまざまな植物がもの作りに利用されてきました。

（c）繊維の採集と利用

かつては、山野に自生するマダ、マフジ、クゾフジ、アイッコから衣類などを作る繊維を取り出しました。他にもアサやカラムシを栽培して繊維を採取しました。ワタが栽培できない当地では、自家用の繭から紡いだ「ひんだし糸」などが使われました。

（d）さまざまな用具の製作

植物から素材を得るだけでなく、桶^{おけ}やざる^{ざる}の製作には木や竹を巧みに加工して利用しました。「むしろ」を織る台など、ものを作るための専用の道具も自分で手作りしました。自然木の形状や材質を巧みに利用して、「踏み鋤」や「まどり」に加工したり、手作りの道具は使う人の体格や手に合わせたりして作られました。

（５）郷土食と保存食

北上山地の山里で暮らす人々の生活基盤は、山すそを切り開いた畑や、焼き畑で行う雑穀栽培が中心でした。主食となるヒエ、「かて」としたオオムギとダイズを加えた3つの作物を一つの畑で2年かけて栽培していました。自給自足が基本の生活では他にもアワ、ソバ、タカキビなどの雑穀、ダイコン、ジャガイモなどの根菜類が栽培されてきました。日常（ケ）に食べる食事は、ヒエが七分くらいに、オオムギが三分くらいの麦^{むぎ}糍^か飯^{めし}でした。自家製の味噌を作り、川魚をとって焼いて保存しておきました。さまざまな年中行事の際には、「節句ごっそう」といって、非日常（ハレ）のご馳走を作り、神仏にもお供えしました。



お大黒様のお供え

食材やしきたりなど、行事食に込められた意味は失われてしまったものもありますが、郷土に根ざしたその土地ならではの文化と言えます。年中行事とともに伝わる行事食は、主に各家庭の味と言えます。あわせて地域の人を招く行事もあり、そこでふるまわれる行事食は地域で共有される郷土食

ともいえます。

豊かな山の幸に恵まれる一方で、「やませ」や遅霜の影響による不作に対しても、普段から保存食を作って備えるとともに、山菜や木の実を保存し、加工して食利用にする知恵や技術を伝承していました。食料をやりくりしたり、食い延ばしを図ったりすることを「そうぞく」（相続）といいました。畑の作物はもちろん、山菜・木の実・キノコや川魚といった四季折々の自然の恵みを保存食に加工し、収穫のない長い冬や、次の季節の農繁期を乗り切る工夫をしていました。凍み豆腐や凍みイモは寒冷地ならではの保存食です。

凶作による飢餓に備える救荒食^{きゆうこうしょく}としては、トチやシダミなどの木の実やウルイを干したものの、沿岸部から入手した海藻のメノコなどが蓄えられました。ほかにワラビ根やクズの根など植物の根からでん粉を取り、食用にする技術も伝承されていました。



シダミ(どんぐり)

（6）早池峰信仰と神楽

北上山地の最高峰、早池峰山は、修験者らによる山岳信仰の霊山であるとともに、山麓の里に暮らす人々からも信仰を集めてきました。農民にとっては水源の山として豊作を祈る「農神」であり、また沿岸地方の漁民にとっては航海の目印となる「山当て」として、山仕事や狩猟に携わる人たちにとっては「山の神」として信仰されました。

早池峰山の山頂へ参詣する登山口は、かつて4箇所あり、北側が門馬口、東側が江繋口、南側が遠野口、西側が大迫口でした。それぞれの登山口には修験者がいて、山頂を目指す登山者に同行していました。早池峰山の東の麓にあたる小国地区には、修験善行院の新山堂（現在の関根早池峰神社）があり、漁業関係者から大漁成就や海上安全が祈願されました。北の麓である門馬の早池峰神社を管理した門馬別当妙泉院は、「早池峰のひのき」の山守（現場管理）を務めていました。門馬では早池峰山に登拝する人を「御山掛け」と呼んで、御山掛けの人たちは別当家に宿泊し、門馬早池峰神社から登山していました。



善行院 新山堂

岩手県ではユネスコ世界無形文化遺産「早池峰神楽」が有名です。川井地域には早池峰神社が数多く存在し、小国地区の末角神楽と江繋地区の江繋早池峰神楽が現存しています。神楽は小正月に火祭りと呼ばれて、火伏せ祈願祭を行っています。

また、本市の南に位置する大槌港と山田港の漁船が太平洋に出ると、早池峰山が航海の目印となり、海からは早池峰山の東側が見えます。その麓にあたる末角・江繋地区の神楽が、大槌町や山田町で神楽を依頼され、海上安全と大漁祈願の舞を上演していました。



門馬早池峰神社

■「早池峰山麓の暮らしと祈り」構成文化財

	名 称	類 型	指定等	所在地	備 考
北上山地に見る日本列島の起源					
1	早池峰山	名勝地	未指定	江檜・門馬	国定公園・ジオサイト
2	兜明神岳	名勝地	未指定	区界	
3	薬師川溪流の古生界	動物・植物・地質鉱物	未指定	江檜	ジオサイト
4	早池峰山の蛇紋岩	動物・植物・地質鉱物	未指定	江檜・門馬	
高山の希少な生態系					
5	早池峰山および薬師岳の高山帯・森林植物群落	動物・植物・地質鉱物【特別天然記念物】	国指定	江檜・門馬	
6	早池峰山のアカエゾマツ自生南限地	動物・植物・地質鉱物【天然記念物】	国指定	門馬	Aランク
7	ヒノキアスナロ群落	動物・植物・地質鉱物	未指定	門馬	
8	ハナヒョウタンボク群落	動物・植物・地質鉱物	未指定	区界	Aランク 木の博物館
9	早池峰山及び高松山のイチイ巨木群	動物・植物・地質鉱物	未指定	江檜	木の博物館
豊富な山林資源と山仕事					
10	北上山地川井村の山村生産用具コレクション(1,345点)	有形の民俗文化財【重要有形民俗文化財】	国指定	北上山地民俗資料館	
11	南部木挽唄	無形の民俗文化財【無形民俗】	市指定	川井地域	
12	北上山地民俗資料館本館・小国分館所蔵資料(10,705点)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館小国分館	
13	北上山地民俗資料館サテライトやまびこ展示資料(15点)	有形の民俗文化財	未指定	道の駅やまびこ館	
14	夏屋砥石	有形の民俗文化財	未指定	小国分館	
15	小国膳	有形の民俗文化財	未指定	小国分館	
16	御山川・薬師川森林軌道跡	遺跡	未指定	門馬・江檜	
もの作り技術の伝承					
17	台を利用したもの作り技術(むしろ織り、はばき織り、背中当て、養蚕の三角まぶし、養蚕の縄網、炭すご、より紐など)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
18	樹皮を加工したもの作り技術(つかり、こだし、みの、はばき、より紐、マダ縄、箕、蚊いぶし、漆つぼ、とうか、腰板など)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
19	植物を利用したもの作り技術(つまご、ぞうり、わらじ、えんつこ、かます、みの、つかり、背中当て、ほうき、がまはばきなど)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
20	木材を加工したもの作り技術(踏み鋤、まどり、様々な道具の柄、背負いもっこ、臼、ふね(牛馬の飼育用具)など)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
21	タケを加工したもの作り技術(とおし・ゆかご・よこだ・つぼざる・めかご・こだしなどの竹細工、シノダケの手もっこ、魚どう、くめんだけなど)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
22	植物から繊維を取る技術(アイッコ、アサ、カラムシ)	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
郷土食と保存食					
23	味噌づくり道具	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
24	豆腐づくり道具	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
25	雑穀栽培の道具	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	

26	食生活の道具（調理、貯用具など）	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
27	信仰の用具（神事、仏事用具など）	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
28	小正月のミズキ団子	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
29	ウマッコつなぎと豆しとぎ	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
30	お大黒様と田楽豆腐	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
31	端午のまき	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
32	お農神様と十六団子	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
33	山の神としとぎ	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
34	馬っこ飯	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
35	つとこ投げ（キビ団子）	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
36	イワナ出汁のソバ切り	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
37	ホオ葉のおふかし	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
38	煮しめ	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
39	アユの粕漬	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
40	サクラマスのしょがら（塩辛）	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
41	小豆ぱっとう	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
42	ゴンボ葉の草餅	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
43	麦ぞうすい	無形の民俗文化財	未指定	川井地域	
早池峰信仰と神楽					
44	寺院大圓寺	建造物【建造物】	市指定	小国	
45	末角神楽	無形の民俗文化財 【無形民俗文化財】	市指定	小国	
46	江鰲早池峰神楽	無形の民俗文化財 【無形民俗文化財】	市指定	江鰲	
47	川井御戸入	無形の民俗文化財 【無形民俗文化財】	市指定	川井	
48	修験道行屋（5件）	建造物	未指定	川内・江鰲・関根・末角・湯澤	
49	早池峰山門馬登山道鳥居	建造物	未指定	門馬	
50	修験小国善行院文書	古文書	未指定	小国	
51	門馬別当家文書	古文書	未指定	門馬	
52	石碑「早池峰山」「早池峰神社」10基	歴史資料	未指定	市内	
53	オシラサマ（15点）	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
54	かばかあ様（2点）	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
55	まいりの仏	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
56	金精様（4点）	有形の民俗文化財	未指定	北上山地民俗資料館	
57	八坂神社の祭り	無形の民俗文化財	未指定	江鰲	
58	賀茂神社例の祭り	無形の民俗文化財	未指定	小国	
59	小国地区の火祭り	無形の民俗文化財	未指定	小国	
60	早池峰新山神社の祭り	無形の民俗文化財	未指定	小国	
61	早池峰神社（4件）	遺跡	未指定	門馬・タイムケラ・関根・湯沢	
62	鉄胎の岩屋	遺跡	未指定	江鰲	
63	早池峰山門馬登山道	地域資産（その他）	未指定	門馬	
64	早池峰山旧登山道（3件）	地域資産（その他）	未指定	剣が峰・上川井・桐内	

※ Aランク、Bランクは、岩手県レッドデータブックによるランクづけである。

■保存・活用の関連施設等

- ・北上山地民俗資料館本館・小国分館 ・宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム
- ・宮古市埋蔵文化財センター ・川井総合事務所 ・宮古市和井内ふるさと会館
- ・宮古市新里生涯学習センター玄翁館 ・花輪農村文化伝承館 ・岩手県立水産科学館
- ・里の駅おぐに ・区界高原ウォーキングセンター ・区界高原そば生産振興組合
- ・道の駅やまびこ館（郷土食コーナー） ・薬師塗漆工芸館内サテライトやまびこ
- ・岩手県「食の匠」 ・早池峰山荘

■「早池峰山麓の暮らしと祈り」構成文化財及び関連施設等分布図



■「早池峰山麓の暮らしと祈り」保存・活用の現状と課題及び方針

【現状と課題 No. 5-1】

- ・早池峰山周辺や区界高原周辺には、「いわてレッドデータブック」にも記載される希少な動植物の群落や生息地があり、環境保全への理解を深める取り組みが必要です。
- ・三陸ジオパーク推進協議会の取り組みにより、早池峰山麓の地質の重要性が解明されてきました。今後はその周知を図り、継続して取り組む必要があります。

【現状と課題 No. 5-2】

- ・博物館等施設に収集、保管されている有形民俗資料は、実物資料があってもその製作方法や素材についての情報が不足しています。また、資料収集が網羅的ではないため、市内の各地域でどのようなもの作りが行われていたのか把握調査を進める必要があります。情報や技術の継承者は高齢者が多いため、映像での記録を含め聞き取り調査の実施や資料収集を早急に行う必要があります。
- ・もの作り技術に関する調査をもとに、山間部や沿岸部での調査結果とあわせて技術の伝承の観点から情報発信し、北上山地民俗資料館で実施している「昔の技術で小物づくり」の体験を拡充していくことで、知恵や技術を理解し、地域や先人への愛着や誇りにつなげることが重要です。

【現状と課題 No. 5-3】

- ・地域ならではの食材や行事と結びついた郷土料理について、市域全体で網羅的な調査が行われていません。食単体ではなく、祭りや年中行事等と関連した調査を行っていく必要があります。
- ・食文化の継承を通じて、地域の人材育成や地域の活性化にもつなげることが求められており、食文化に関する調査をもとに、沿岸部と山間部の地域的な特徴を明らかにし、本市の食文化の魅力として情報発信していく必要があります。

【現状と課題 No. 5-4】

- ・川井地域では、地域自体の過疎化が進み、神楽が奉納される神社の例祭や行事が実施できなくなる事態が予想されます。行政と地域住民との連携によって、民俗芸能の発表の場を創出し地域振興につなげるなどの支援が必要です。

【現状と課題 No. 5-5】

- ・川井地域の修験や神楽に関連する神社や獅子頭、修験者の行屋^{ぎらや}、古文書等の情報が不足しており、継続的に総合調査を進める必要があります。漁業者の早池峰信仰や神楽信仰を顕彰することにより、川井地域の神楽の魅力や歴史的価値の向上を図ることが求められています。

【方針 No. 5-1】

- ・早池峰山周辺や区界高原周辺に生息する希少な動植物や、国・県・市の指定天然記念物に関する解説する図鑑（図録）を作成し、希少な動植物の生態と環境への理解を深め、その保護につなげます。
- ・三陸ジオパーク協議会や区界高原ウォーキングセンター、木の博物館（川井総合事務所）との連携を深めることにより、市内の地質や自然の魅力を高め、情報発信や観察会の開催を推進します。

【方針 No. 5-2】

- ・暮らしに使われた道具や民具を作る技術について、計画的に聞き取り調査を行い、映像に記録するとともに、技術を伝承する人材の育成に取り組みます。民具の「作り部」のような役割を果たす人材を育成することで、作り方、使い方の伝承につなげます。
- ・ものづくり技術の聞き取り調査の結果をデータベースに整理し、映像とともに情報発信し、有形民俗文化財を作る技術を応用した「もの作り体験メニュー」を開発することで、小・中学校の学習で活用できるように取り組みます。

【方針 No. 5-3】

- ・市内の郷土料理の作り方や保存食について、聞き取り調査と映像記録により行事等と技術を記録保存します。
- ・食文化に関する調査によるデータベースを作成し、映像と共に情報発信に取り組みます。郷土料理の体験メニューを開発し、料理教室などを通じて伝承を担う人材を育成し、観光への寄与につなげます。

【方針 No. 5-4】

- ・江鑿早池峰神楽、末角神楽の保存会の自主公演を支援し、必要に応じて道具衣装の修理や新調について支援します。行政と地域住民の協働によって神楽共演会を開催し、地域振興と交流人口の拡大を図ります。

【方針 No. 5-5】

- ・市内の獅子頭や行屋^{ぎょうや}など旧修験の家に伝わる資料を総合的に調査し、川井地域の神楽や早池峰信仰に関する特徴や歴史的価値を明らかにし、情報発信して魅力の向上を図ります。